

ASA (朝日新聞販売所)は高齢社会を応援します

朝日新聞サービスアンカー

定年時代

埼玉版

埼玉の朝日新聞に折り込んで63万部

発行 ©株式会社新聞編集センター 2015
〒103-0016
東京都中央区日本橋小網町11-10
岩尾大和ビル7F
電話 03-5614-5331
FAX 03-5614-5332
Eメール teinen@teinenjidai.com

広告のお申し込みは下記代理店へ
株朝日広告社 03(3547)5600
日本コミュニケーション(株) 03(3661)2836
株創通 03(3986)3291
株ユーアンドユー 03(6427)7268

食べ物、各種招待券…

プレゼント

ネットからも申し込み

チャンスは→ **定年時代** 検索

情報満載「定年時代」ホームページ
各版1面記事バックナンバー掲載

- どうぶつはなにをみているの? 3面
- ランチタイム・コンサート 4面
- プレゼントコーナー 7面
- 介護相談 8面

クリック

り。 (2面に続く)



「8年前に亡くなった妻はヒョウタンのことを知らないんです。来世で会うときは真っ先に報告したい」と荒井さん。自宅には、これまで作ったヒョウタン工芸作品がたくさん陳列されている

蓮田市の荒井勲さん

個展で「心和む」と好評

蓮田市に住む荒井勲さん(79)は約6年前から自家栽培のヒョウタンに、人物や動植物などの絵や文字を描いたヒョウタン工芸品を作り続けている。これまで個展を6回開いてきたが温かくて、かわいらしい荒井さんの作品は、「心和む」「見ていて楽しくなる」と評判。昨年(2014年)も自宅の庭で約150個のヒョウタンを収穫し、「親子シリーズ」や「ほろ酔いシリーズ」と名付けた作品群をすでに200点近く制作した。今年10月開催予定の個展「第7回ひょうたん工芸展」に向け出品作300点を目標に毎日制作に励んでいる。(田崎)

荒井さんの自宅には、これまで制作した作品の一部が展示されている。それらの作品は見ていてほほ笑ましくなるものばかり。ペンギンの家族やロシアのマトリョーシカ人形によく似た母娘、恋という文字の下でハート形に顔と顔を向き合わせている2羽のハクチヨウなどなど。

親子やえとなど描いて置き物に

ヒョウタンで工芸品作る

「栽培したヒョウタンはきれいな形ばかりではありません。曲がっていたり、表面に穴が開いていた。あばたや染みがあったりもします。私はどんな形をしていても捨てないで、その形を生かして作品にしています」と荒井さん。ヒョウタンにもその大きさからいろんな種類があるが、荒井さんが作るのは直径最大12センチの小さいな千成ヒョウタン。約8年前に突然、7歳下の奥さんを脳動脈瘤(りゅう)で亡くし、精神的ショックから「痩せ細ってしまった」という荒井さん。しかし、その後「ヒョウタンと巡り合ったことで、生きがいを持つようになることができました」とにこやかに話す。荒井さんは、どういうきっかけでヒョウタン工芸品を作るように

なっただらう。妻がいなくなってしまうくらいだったから、宇都宮市に住む娘と孫が蓮田市に遊びに来た。そのとき持ってきたのが、学校からもらったという20個程度のヒョウタンの種。種を託された荒井さんは戸惑った。大学卒業後、教育関係の出版社や学校法人で編集や広報の仕事を経てきたが、農業経験はほとんどなかったからだ。そこで、適当に庭先に穴を掘って種を植えておいたところ、次第に芽が出てつるが伸び、秋になると100個以上の実がなった。「思いがけずたくさんの実がなったのですが、今度はこの実をどうすればいいのかわからず暮れました」と荒井さん。近所の農家の人に聞いたり、インターネットで調べたりして思いついたのが、台座を付けて置き物にすることだった。しかし、ヒョウタンを置き物にするには、その前に乾燥させなければならぬ。荒井さんは3年間試行錯誤して次のような方法を確立した。①収穫したヒョウタンの尻に穴を開けて2週間水に漬ける②するとヒョウタンの中身が腐敗してくるので、種やワタをかき出し、中を空洞にする③その後で表面の薄い膜を取ってつるにする。この状態で天日干しすれば乾燥したヒョウタンの出来上がり。

毎月第1月曜日発行